

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	○第2種電気工事士対策	【知】 低圧屋内配線における各種作業方法について理解している。 【思】 低圧屋内配線における配線・法令などを理解している。 【主】 資格取得に向け、意欲的に学ぼうとしている。	60
5			
6	○電気実習（電気回路） 絶縁抵抗計による絶縁抵抗の測定 接地抵抗計による接地抵抗の測定 RLC回路の位相特性	【知】 各種電気回路の特性・利用を理解している。 【思】 実験結果より考察・分析ができている。 【主】 電気回路に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	30
7	LC回路のX-特性 直列共振回路 並列共振回路		
8	○電気実習（電子回路） 電子計測器の取り扱い ダイオードに関する実験 トランジスタの静特性	【知】 各種電子回路の特性・利用を理解している。 【思】 実験結果より考察・分析ができている。 【主】 電子回路に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	30
9	増幅回路の特性(入出力・周波数) 整流回路に関する実験 定電圧回路に関する実験 パルス回路に関する実験Ⅰ・Ⅱ		
10	○電気実習（電気機器） 直流電動機の起動・速度制御 直流電動機の負荷・無負荷特性 直流発電機の負荷・無負荷特性 単相変圧器の変圧比・極性試験	【知】 各種電気機器の特性・利用を理解している。 【思】 実験結果より考察・分析ができている。 【主】 電気機器に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	45
11	単相変圧器の特性試験 単相電力・力率の測定 単相変圧器の三相結線 交流モータの原理 電気動力計による三相誘導電動機の負荷特性		
12	単相(交流)電力量計の誤差試験 単相電力計による三相電力の測定 三相誘導電動機の無負荷試験・拘束試験 三相誘導電動機の手動速度制御		
1	○電気実習（電気制御） PCによる制御(8bit LED)Ⅰ・Ⅱ PCによる制御(Nゲージ)Ⅰ・Ⅱ	【知】 各種電気制御の特性・利用を理解している。 【思】 実験結果より考察・分析ができている。 【主】 電気制御に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	36
2	論理回路Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ シーケンス制御(基本・応用)		
3	○電気実習（製作） 直流安定化電源の製作	【知】 製作に必要な知識・技術を身に付けている。 【思】 設計・手順などを考察し作業ができている。 【主】 製作に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	9
			合計 210

通し番号		30		令和7年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス		
1 科目の概要									
学 科		学 年 ・ 年 次		教 科	科 目	必修・必修修・選択		単 位 数	
電気・建築科		3	年	地歴公民	歴史総合	必修修		2	
科目の目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 （１）近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする【知識及び技能】 （２）近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関係や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。【思考力、判断力、表現力等】 （３）近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を粗野に課題を主体的に追求、解決使用とする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての次各区などを深める。【学びに向かう力、人間性等】							
教材		歴史総合 みる・よみとく・考える（山川出版社） 歴史総合ノート みる・よみとく・考える（山川出版社）							
留意点							開講予定 人数		
2 評価									
(1) 評価の観点									
観 点		趣 旨							
知識・技能		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。							
思考・判断・表現		近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。							
主体的に学習に取り組む態度		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。							
(2) 評価方法									
観点		評価方法							
知識・技能		定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察							
思考・判断・表現		定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察							
主体的に学習に取り組む態度		定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察							
3 履修上および学習上の注意									

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	1 節 歴史と私たち 世界とつながる旅行の歴史 ～身近なものから歴史を考えてみよう～	○諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。 ○日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史について歴史が叙述されていることを理解する。 ○中学校の歴史的分野で学習した内容を基に、前近代の日本と世界のつながりについて振り返る。	4
5	2 節 結びつく世界と日本の開国	18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、工業化と世界市場の形成を理解する。 18世紀の東アジア諸国がどのような関係を築き、どのような経済発展をしていったのかについて理解する。	6
6	3 節 国民国家と明治維新	国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲制と国民国家の形成を理解する。 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。	9
7	4 節 近代化と現代的な諸課題	植民地の人々がどのような支配を受けていたのかについて理解する。	9
8		20世紀初期、帝国主義に対して人々はどのような態度を示し、アジア諸国はどのような動きを見せたのかについて理解する。 自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	
9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 節 国際秩序の変化や大衆化への問い	国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。	10
10	2 節 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。	6
11	3 節 経済危機と第二次世界大戦	経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際協調体制の動揺を理解する。 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	10
12	4 節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 1 節 グローバリ化への問い 2 節 冷戦と世界経済	自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。 生活と文化に関する写真等から、国際秩序の変化や大衆化の歴史を振り返り、理解を深める。 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバリ化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。	
1	3 節 世界秩序の変容と日本	アジア諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバリ化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、市場経済の変容と課題を理解する。 冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。	5
1	4 節 現代的な諸課題の形成と展	科目のまとめとして、現代的な諸課題に関する主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する。	5
			合計 64

通し番号	31		令和7年度入学生				北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要										
学 科		学 年・年 次		教 科	科 目		必修・必修修・選択		単 位 数	
電気・建築科		3	年	数学	数学Ⅱ		必修		2	
科目の目標		指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								
教材		「最新 数学Ⅱ（数研出版）」								
		「書き込み式シリーズ〔基礎～標準〕 教科書傍用 パラレルノート数学Ⅱ（数研出版）」								
留意点							開講予定 人数	必修のため全員		
2 評価										
(1) 評価の観点										
観 点		趣 旨								
知識・技能		指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。								
思考・判断・表現		関数関係に着目し、事象を的確に表してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。								
主体的に学習に取り組む態度		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。								
(2) 評価方法										
観 点		評 価 方 法								
知識・技能		定期考査・単元テスト・小テスト								
思考・判断・表現		定期考査・単元テスト・小テスト・ワークシート・授業中の発言や発表								
主体的に学習に取り組む態度		授業への取り組み姿勢・週末課題・長期休業中の課題								
3 履修上および学習上の注意										
副教材を、授業や家庭学習で活用する。2年次と3年次で、教科書の内容を半分ずつ学習します。2年次で使用した教科書や副教材をそのまま使用するので、注意すること。										

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第4章 三角関数 第1節 三角関数	【知】新しい角の概念の意味や三角関数の値の変化やグラフの特徴、三角関数の相互関係や加法定理・合成について理解している。 【思】三角関数に関する様々な性質についての考察、三角関数の加法定理から新たな性質を導くこと、三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	12
5	第2節 加法定理		9
6	【前期中間考査】		1
	第5章 指数関数と対数関数	【知】指数の拡張と指数計算、指数関数の値の変化やグラフの特徴、および、対数の意味とその性質の理解、対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 【思】指数と対数を相互に関連付けて考察することや、指数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	17
7			
8			
9	【前期期末考査】	【知】微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法について理解することができる。 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 【思】関数とその導関数との関係について考察することができる。 微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	1
	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法		12
10			
11	【後期中間考査】		1
12	第2節 積分法		11
1			
			合計 64

通し番号	32						
令和7年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス				
1 科目の概要							
学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修修・選択	単位数	
電気・建築科	3	年	理科	物理基礎	必修	2	
科目の目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。						
教材	新編物理基礎（数研出版）						
	サンダイヤル 物理基礎の基本練習（啓林館）						
留意点					開講予定 人数		
2 評価							
(1) 評価の観点							
観 点	趣 旨						
知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解できた。科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けた。						
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーについて、身につけた知識を用いて用いて思考できた。観察、実験などを行い、科学的に探求する力を身に付けた。						
主体的に学習に取り組む態度	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けた。						
(2) 評価方法							
観点	評価方法						
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート、観察・実験、学習観察						
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、観察・実験、学習観察						
主体的に学習に取り組む態度	定期考査・小テスト、ワークシート、観察・実験、学習観察						
3 履修上および学習上の注意							

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	1 編 運動とエネルギー ○運動の表し方 ・速度	【知】等速直線運動の式および $x-t$ 図、 $v-t$ 図を理解できた。速さと速度、移動距離と変位の違いを理解できた。加速度の定義や正負の意味を理解できた。等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用することができた。	10
5	・加速度 ・落体の運動 【前期中間考査】	【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。	
6	○運動の法則 ・力とそのはたらき	【知】力がベクトル量であることを認識し力の合成や分解ができた。注目する物体にはたらく力が指摘でき、つりあいの式、運動方程式を立てて考えることができた。	16
7	・力のつりあい ・運動の法則 ・摩擦を受ける運動 ・液体や気体から受ける力 【前期期末考査】	【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。	
8	○仕事と力学的エネルギー ・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的なエネルギーの保存	【知】仕事、仕事率を計算して求めることができた。運動エネルギーが $\frac{1}{2}mv^2$ であること、運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解できた。位置エネルギーを計算することができた。さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。	12
9	第2編 熱 ○熱とエネルギー ・熱と物質の状態 ・熱と仕事 【後期中間考査】	【知】温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解できた。熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができた。仕事と熱の関係や熱力学第一法則、熱機関と熱機関の効率について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。	9
10	第3編 波 ○波の性質 ・波と媒質の運動 ・波の重ね合わせの原理	【知】波の発生原理や基本事項を理解できた。縦波と横波の違いを理解し、縦波を横波の形で表現できた。定在波の生じるしくみ、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。	8
	○音 ・音の性質 ・発音体の振動と共振・共鳴 【後期期末考査】	【知】音の波としての性質を理解できた。弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解できた。気柱の振動の際、管内に生じる定在波の腹は管口より外にできることを理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。	5
11	第4編 電気 ○物質と電気抵抗	【知】物体の帯電するしくみ、導体・不導体・半導体の違いについて理解できた。電流と電圧の基礎について理解できた。オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解できた。ジュールの法則、電力量と電力の意味について理解できた。	5
12	・電気の性質 ・電流と電気抵抗 ・電気とエネルギー	【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。	
1	○磁場と交流 ・電流と磁場 ・交流と電磁波	【知】電流がつくる磁場の向きを判断することができた。電磁誘導の基礎、交流電圧の基本について理解できた。電磁波の振動数と波長の関係、身近に使われている電磁波の周波数について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。	3
2	第5編 物理学と社会 ○エネルギーの利用 ・エネルギーの移り変わり ・エネルギー資源と発電	【知】エネルギーの種類や身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解できた。エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し、それらの長所と短所を理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。	2
3			
			合計 70

通し番号	34					
令和7年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
電気・建築科	3	年	英語	英語コミュニケーションⅡ	必修	2
科目の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。 (1) 聞くこと ア：日常的・社会的な話題について、一定の支援があれば必要な情報を聞き取り、話の展開や意図、概要・要点・詳細を把握できるようにする。 (2) 読むこと ア：日常的・社会的な話題について、一定の支援があれば必要な情報を読み取り、文章の展開や意図、概要・要点・詳細を把握できるようにする。 (3) 話すこと【やり取り】 ア：日常的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、詳しく伝え合いながら会話を続けられるようにする。 イ：社会的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に詳しく伝え合えるようにする。 (4) 話すこと【発表】 ア：日常的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、論理的に詳しく伝えられるようにする。 イ：社会的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に詳しく伝えられるようにする。 (5) 書くこと ア：日常的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、論理的で詳しい文章を書けるようにする。 イ：社会的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的で詳しい文章を書けるようにする。					
教材	All Aboard! English Communication Ⅱ (東京書籍)					
	All Aboard Ⅱ WORKBOOK Ⅱ (東京書籍)					
	クラウン チャンクで英単語 Basic(三省堂)					
留意点	2 学年「英語コミュニケーションⅡ」から継続履修です。				開講予定 人数	
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について聞くこと、読むことを通して、その内容を捉える技能を身に付けている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝える技能を身に付けている。					
思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることで、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。					
主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、聞き手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	定期考査・小テストリスニングテスト 等					
思考・判断・表現	定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等					
主体的に学習に取り組む態度	学習観察・提出物 授業や課題への取り組み 等					
3 履修上および学習上の注意						
・言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	Lesson 6	（知）動詞の目的語になるif節を用いた文の形・意味を理解している。また、京野菜について学んだり、京野菜のポスターに書かれた事柄や地元の有名な場所やものについて調べた事柄を整理・理解している。 （思）伝統野菜に関して書かれた文章について考えや情報などを話したり書いたりして伝え合っている。 （主）伝統野菜に関して書かれた文章について、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。	8
5	Word Box 3	仕事や職業を表すのによく使われる語句や表現を用いた文の形・意味を理解している。	2
6	前期中間考査		
7	Lesson 7	（知）関係副詞where, whenを用いた文の形・意味を理解している。また、世界中で壁画を描く活動について学んだり、外国の人々と交流する方法について調べた事柄を整理・理解している。 （思）世界中で壁画を描く活動に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。 （主）世界中で壁画を描く活動に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。	8
8	Communication 2 Getting the Necessary Information	海外旅行先の空港で入国審査の手続きをするにあたり、旅行の目的や滞在日数などを申告する仕方を理解している。 目的地までの行き方を案内するにあたり、地下鉄の路線図を見ながら、相手が理解しやすいような案内をしようとしている。	2
9	前期期末考査		
10	Lesson 8	（知）知覚動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、生物模倣について学んだり、自然界のデザインをヒントに開発された製品について調べた事柄を整理・理解している。 （思）生物模倣についてのオンライン講演の授業に関して書かれた文章について、情報などを話したり書いたりして伝え合っている。 （主）生物模倣についてのオンライン講演の授業に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。	9
	文法のまとめ 3	（知）使役動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学んだり、その問題について調べた事柄を整理・理解している。	2
	Lesson 9	（思）チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。 （主）チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。	9
11	エッセイライティング	興味をもっている社会問題に関して、必要な情報や感想・意見などを英語のエッセイの流れに構成して、読む者が理解しやすいようなエッセイを書いている。	2
	Extra Target 2 後期中間考査		
12	Lesson 10	（知）仮定法過去（I wish + 過去形の文）を用いた文の形・意味を理解している。 ナイチンゲールの生涯について学んだり、人を助ける職業について調べた事柄を整理・理解している。 （思）医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。 （主）医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。	9
	文法のまとめ4	自分たちで結末を考えた、英語で書かれたBear's Pieの内容を理解している。また、登場人物の気持ちや聞いている者に伝わるように、朗読する知識を身につけている。	2
1	Reading 2 Word Box 5	自分が何時ごろに何をするかについて、平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書いて、適切な発表を行っている。	9 2
			合計 64

通し番号	35		令和7年度入学生				北海道留萌高等学校 授業シラバス		
1 科目の概要									
学 科		学 年・年 次		教 科	科 目	必修・必修修・選択		単位数	
電気・建築科		3	年	工業	電気実習	必修		3	
科目の目標		①知識及び技術 工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②思考、判断、表現 工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ③主体的に学習に取り組む態度 工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。							
教材									
留意点							開講予定 人数		
2 評価									
(1) 評価の観点									
観 点		趣 旨							
知識・技能		工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。							
思考・判断・表現		工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。							
主体的に学習に取り組む態度		工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。							
(2) 評価方法									
観点		評価方法							
知識・技能		学習観察							
思考・判断・表現		学習観察・レポート							
主体的に学習に取り組む態度		学習観察・レポート							
3 履修上および学習上の注意									

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	○電気実習（電子回路） パルス回路に関する実験Ⅰ	【知】各種電子回路の特性・利用を理解している。 【思】実験結果より考察・分析ができている。	63
5	パルス回路に関する実験Ⅱ	【主】電子回路に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
6	オペアンプに関する実験Ⅰ オペアンプに関する実験Ⅱ		
7	○電気実習（電気機器） 電気動力計による三相誘導電動機の負荷特性	【知】各種電気機器の特性・利用を理解している。 【思】実験結果より考察・分析ができている。 【主】電気機器に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
8	○電気実習（電力技術） 過電流継電器の時限特性 高電圧実験 外線工事 模擬送電線路の特性	【知】各種電力技術の特性・利用を理解している。 【思】実験結果より考察・分析ができている。 【主】電力技術に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
9			
10	○電気実習（電気制御） シーケンス制御（基本）Ⅰ シーケンス制御（基本）Ⅱ シーケンサ－1（基本回路） シーケンサ－2（信号機制御）	【知】各種電気制御の特性・利用を理解している。 【思】実験結果より考察・分析ができている。 【主】電気制御に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	33
11	○電気実習（製作） 直流安定化電源の製作（USB電源）Ⅰ 直流安定化電源の製作（USB電源）Ⅱ ワイヤレスマイクの製作Ⅰ ワイヤレスマイクの製作Ⅱ その他製作実習	【知】製作に必要な知識・技術を身に付けている。 【思】設計・手順などを考察し作業ができている。 【主】製作に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
12			
1			
			合計 96

通し番号	36					
令和7年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
電気・建築科	3	年	工業	課題研究	必修	3
科目の目標	①知識及び技術 工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 ②思考、判断、表現 工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 ③主体的に学習に取り組む態度 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
教材						
留意点					開講予定 人数	
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。					
思考・判断・表現	工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。					
主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	学習観察					
思考・判断・表現	学習観察・レポート					
主体的に学習に取り組む態度	学習観察・レポート					
3 履修上および学習上の注意						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
	1. 興味・関心に応じた課題の設定	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解する。 【思】工業に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	6
	2. 個人又はグループでの調査・研究・実験	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。 【思】工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	21
	3. 課題の検討・再設定	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。 【思】工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	21
	4. 産業現場等における実習	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。 【思】工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	21
	5. 作品製作・製品開発	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。 【思】工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	21
	6. 研究結果の報告	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解する。 【思】工業に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	6
			合計 96

通し番号	37					
令和7年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
電気・建築科	3	年	工業	電気製図	必修	3
科目の目標	①知識及び技術 工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②思考、判断、表現 製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ③主体的に学習に取り組む態度 工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
教材						
留意点					開講予定 人数	
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。					
思考・判断・表現	製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。					
主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	提出物					
思考・判断・表現	提出物・学習観察					
主体的に学習に取り組む態度	学習観察					
3 履修上および学習上の注意						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
	第1章 製図の基本	【知】工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	38
	1 製図と規格		
	2 製図用器具・材料	【思】製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。	
	3 線と文字		
	4 平面図形	【主】工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	5 投影図		
	6 線の用法		
	7 図形の表し方		
	第8章 CAD製図	【知】工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	58
	1 基本操作		
	2 線・円の作図方法	【思】製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。	
	3 指定寸法の図の作図方法		
	4 図面の印刷方法	【主】工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	5 家具の作図		
	6 平面図の作図		
	7 文字の記入		
	8 寸法の作図		
	9 レイヤの操作方法		
	10 各種課題の作図		
	11、電気屋内配線図の作図		
			合計 96

通し番号	38				
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要					
学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修修・選択
電気・建築科	3	年	工業	電力技術（発送変電）	必修
科目の目標	①知識及び技術 電力技術について電力の供給と利用技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ②思考・判断・表現 電力の供給と利用技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ③主体的に取り組む態度 電力を効率的に利用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
教材					
留意点					開講予定 人数
2 評価					
(1) 評価の観点					
観 点	趣 旨				
知識・技能	電力技術について電力の供給と利用技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につける。				
思考・判断・表現	電力の供給と利用技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身につける。				
主体的に学習に取り組む態度	電力を効率的に利用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける。				
(2) 評価方法					
観点	評価方法				
知識・技能	定期考査・小テスト・ワークシート				
思考・判断・表現	定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察				
主体的に学習に取り組む態度	定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察				
3 履修上および学習上の注意					

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 発電 1. エネルギー資源と電力 2. 水力発電 3. 火力発電	【知】発電について環境保全、省資源及び省エネルギーに配慮した発電方法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。ことができる 【思】発電方式の概要と特徴や発電の原理、方法、構成及び特性に着目して、発電に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する事ができる。 【主】発電について自ら学び、エネルギーや資源の効率的な電気エネルギーへの変換に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	26
5	4. 原子力発電 5. 再生可能エネルギーによる発電 6. その他のエネルギーによる発電		
6	【前期中間考査】		
7	第2章 送電 1. 送電方式	【知】送電について方式や構成などを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思】送電と発電の方式や特性などに着目して、送電に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善することができる。 【主】送電について自ら学び、電力系統の構成と運用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	24
8	2. 送電線路		
	3. 送電と変電の運用		
9	【前期期末考査】		
10	第3章 配電 1. 配電系統の構成	【知】配電について方式や構成などを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思】配電に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善することができる。 【主】配電について自ら学び、電力系統の構成と運用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	23
11	2. 配電線路の電気的特性		
12	【後期中間考査】 第4章 屋内配線 1. 自家用電気設備		
1	2. 屋内配線		
	第5章 電気に関する法規 1. 電気事業法 2. その他の電気関係法規	【知】屋内配線について配線図記号や各種工事を理解すると共に、関連する技術を身につけることができる。 【思】屋内配線の安全性や利便性について考察し、各種結線方式の違いを検証し、改善することができる。 【主】屋内配線について自ら学び、回路方式や配線器具などの運用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	11
		【知】電気に関する法規について目的と概要を踏まえて理解することができる。 【思】法規に照らして電気設備と施工に着目して、電気に関する法規に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、法的な根拠に基づき結果を検証し改善することができる。 【主】電気に関する法規について自ら学び、電気事業の発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	12
			合計 96

通し番号	39					
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス				
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
電気・建築科	3	年	工業	電力技術（応用）	必修	2
科目の目標	①知識及び技能 電力技術について電力の供給と利用技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②思考，判断，表現 電力の供給と利用技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する。 ③主体的に学習に取り組む態度 電力を効率的に利用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
教材						
留意点					開講予定 人数	
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	電力技術について電力の供給と利用技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。					
思考・判断・表現	電力の供給と利用技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。					
主体的に学習に取り組む態度	電力を効率的に利用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	定期考査・小テスト・ワークシート					
思考・判断・表現	定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察					
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート・学習観察					
3 履修上および学習上の注意						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第6章 照明 1.光と放射エネルギー 2.光の基本量と測定法 3.光源	【知】電力の利用について電力機器と工業生産を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思】電力機器の原理に着目して、電力の利用に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し、改善できる。 【主】電力の利用について自ら学び、電力の安全で効率的な利用に主体的かつ協働的に学習している。	12
5	照明設計 【前期中間考査】		1
6	第7章 電気加熱(電熱) 1.電熱の基礎		6
7	2.各種の電熱装置		
8	第8章 電力の制御 1.制御の概要 2.シーケンス制御 3.フィードバック制御	【知】電力の制御についてエネルギーと制御技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思】電気エネルギーの制御の原理、制御系の構成に着目して、電力の制御に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し、改善できる。 【主】電力の制御について自ら学び、工業生産の省力化や自動化への活用主体的かつ協働的に学習している。	14
9	4.コンピュータと制御 5.制御の活用事例 【前期期末考査】		1
10	第9章 電気化学 1.電池 2.表面処理 3.電解化学工業	【知】電力の利用について電力機器と工業生産を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思】電力機器の原理に着目して、電力の利用に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し、改善できる。 【主】電力の利用について自ら学び、電力の安全で効率的な利用に主体的かつ協働的に学習している。	14
11	第10章 電気鉄道 1.電気鉄道の特徴と方式 2.鉄道線路 3.電気車 4.信号と保安 5.特殊鉄道 【後期中間考査】		10
12	第11章 さまざまな電力応用 1.ヒートポンプ 2.加熱調理器 3.静電気現象の応用		5
1	4.超音波とその応用		
2	5.自動車への応用		
合計			64

通し番号	40		令和7年度入学生				北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要										
学 科		学 年 ・ 年 次		教 科	科 目		必修・必修修・選択		単位数	
電気・建築科		3	年	数学	数学B		選択		2	
科目の目標		数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								
教材		「新編 数学B（数研出版）」								
		「教科書傍用 3 T R I A L 数学B（数研出版）」								
留意点		数学Ⅰ・A・Ⅱの復習を行うこと。					開講予定 人数			
2 評価										
(1) 評価の観点										
観 点		趣 旨								
知識・技能		数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。								
思考・判断・表現		離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。								
主体的に学習に取り組む態度		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。								
(2) 評価方法										
観 点		評価方法								
知識・技能		定期考査・単元テスト・小テスト								
思考・判断・表現		定期考査・単元テスト・小テスト・ワークシート・授業中の発言や発表								
主体的に学習に取り組む態度		授業への取り組み姿勢・週末課題・長期休業中の課題								
3 履修上および学習上の注意										
副教材を、家庭学習で活用する。副教材を課題として提示するので、計画的に学習を進めること。										

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	【知】等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 【思】事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	14
5			1
6	【前期中間考査】		15
	第2節 いろいろな数列	【知】いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解することができる。漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。また、数学的帰納法について理解することができる。 【思】事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。また、自然数の性質などを見だし、それらについて数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	
7			
8			1
9	【前期期末考査】	【知】標本調査の考え方について理解を深めることができる。確率変数と確率分布について理解することができる。二項分布と正規分布の性質や特徴について理解することができる。 【思】確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	18
	第2章 確率分布と統計的な推測 第1節 確率分布		
10			
11		【知】正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解することができる。 【思】目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	1
	【後期中間考査】		14
12	第2節 統計的な推測		
1			
			合計 64

通し番号	41	←通し番号を打つと下記に表示されます。				
令和7年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
電気・建築科	3	年	工業	通信技術	選択	2
科目の目標	①知識及び技術 通信技術について通信機器の機能や特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②思考、判断、表現 通信技術に関する課題を発見し、技術として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ③主体的に学習に取り組む態度 通信技術を通して情報通信の付加価値を高める力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
教材						
留意点					開講予定 人数	
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	通信技術について通信機器の機能や特性を理解し、関連技術が身についている。					
思考・判断・表現	通信技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。					
主体的に学習に取り組む態度	通信技術を通して情報通信の付加価値を高める力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	定期考査・小テスト・ワークシート					
思考・判断・表現	定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察					
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート・学習観察					
3 履修上および学習上の注意						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4 5	第1章 有線通信	【知】有線通信について有線通信回線を用いたアナログ及びデジタル通信に使用されているシステムを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】有線の伝送路を活用した通信システムに着目して、優先通信の利用に関する課題を見出すとともに解決策を考えることができる。 【主】有線通信について自ら学び、技術の進展に対応した有線通信の活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。	20
6 7	【前期中間考査】 第2章 無線通信	【知】無線通信について電波を用いたアナログ及びデジタル通信に使用されているシステムを踏まえて理解している。 【思】電波を活用した通信システムに着目して、無線通信の利用に関する課題を見出すとともに解決策を考えることができる。 【主】無線通信について自ら学び、技術の進展に対応した無線通信の活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。	1 18
9 10	【前期期末考査】 第3章 画像通信	【知】画像通信について通信データを送受信する通信システムを踏まえて理解している。 【思】静止画像や動画画像などを送受信する通信システムに着目して、画像通信の利用に関する課題を見出すとともに解決策を考えることができる。 【主】画像通信について自ら学び、技術の進展に対応した画像通信の活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。	1 12
11 12	【後期中間考査】 第4章 通信装置の入出力機器	【知】通信装置の入出力機器について情報のデジタル化を踏まえて理解している。 【思】通信装置の入出力機器を用いたシステムに着目して、通信機器の入出力機器の利用に関する課題を見出すとともに解決策を考えることができる。 【主】通信装置の入出力機器について自ら学び、技術の進展に対応した通信機器の活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。	1 7
1	第5章 通信に関する法規	【知】通信に関する法規について法規の目的と概要を踏まえて理解している。 【思】事業者や利用者が円滑な通信を行うことに着目して、通信に関する法規に関する課題を見出すとともに解決策を考えることができる。 【主】通信に関する法規について自ら学び、法令を遵守して円滑な電気通信に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。	4
			合計 64

通し番号	42					
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス				
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
電気・建築科	3	年	工業	建築実習	必修	3
科目の目標	建築に関する技術を実際の作業を通じて総合的に習得させ、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す (1) 建築における基礎的な加工技術や生産技術などを実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2) 建築における技術に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき、建築技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 建築に関する技術の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
教材						
留意点					開講予定 人数	
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	建築における基礎的な加工技術や生産技術などを実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。					
思考・判断・表現	建築における技術に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき、建築技術の進展に対応し解決する力が身に付いている。					
主体的に学習に取り組む態度	建築に関する技術の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	授業や課題への取組、授業態度					
思考・判断・表現	授業や課題への取組					
主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取組、実習日報等、授業態度					
3 履修上および学習上の注意						
・定期考査は行わないため、基本的に課題への取組状況ならびに提出状況が成績に大きく反映されます。 ・授業ごとに各観点に沿った評価を行い、課題終了時に総合的な評価を行います。 ・安全管理の徹底、手順の理解、班員との協力を特に留意する。						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	○オリエンテーション		3
5	○光波測量実習	【知】 光波測量の目的と機器の取扱いについて理解している。 【思】 測量機器の使用方法和得られたデータを判断できる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	15
6	○工事測量実習	【知】 工事測量の目的と危機の取扱いについて理解している。 【思】 安全かつ効率良く作業をするために判断し実践できる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	12
7	○木材加工実習	【知】 各種工作機械を正しく使用することができる。 【思】 各種工作機械を正しく選定することができる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	15
8			
9	○鉄筋コンクリート実習	【知】 部材名と作業工程を理解し作業進められる。 【思】 周囲の状況を判断し、協働的に作業に取組むことができる。 【主】 実習に主体的かつ効率的に取組もうとしている。	21
10			
11	○木材加工実習（自主設定課題）	【知】 作品製作において必要な加工をすることができる。 【思】 計画的に作業を行い、必要な加工を判断することができる。 【主】 実習に主体的かつ意欲的に取組もうとしている。	30
12			
1			
			合計 96

通し番号	44		令和7年度入学生				北海道留萌高等学校 授業シラバス		
1 科目の概要									
学 科		学 年・年 次		教 科	科 目	必修・必修修・選択		単位数	
電気・建築科		3	年	工業	建築製図	必修		3	
科目の目標		工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 建築製図について日本産業規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 設計図に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 建築おける図面の作成及び図面から建築情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。							
教材		建築設計製図（実教出版）							
留意点							開講予定 人数		
2 評価									
(1) 評価の観点									
観 点		趣 旨							
知識・技能		建築製図について日本産業規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術が身に付いている。							
思考・判断・表現		図面の表現方法や意思伝達の方法などについての態度と理解を深める。							
主体的に学習に取り組む態度		建築おける図面の作成及び図面から建築情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。							
(2) 評価方法									
観点		評価方法							
知識・技能		レポート・製作物、授業への取組							
思考・判断・表現		レポート・製作物、授業への取組、課題の提出状況							
主体的に学習に取り組む態度		レポート・製作物、授業への取組、課題の提出状況							
3 履修上および学習上の注意									
・定期考査は行わないため、基本的に課題への取組状況ならびに提出状況が成績に大きく反映されます。									

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	○オリエンテーション		3
5	○木造住宅の自由設計	【知】 木造住宅における主要な材料や構造に関する知識から設計図を作成できる。また建築法規や基準についても十分に理解している。 【思】 独自のアイデアやデザインを考案し、その実現可能性を論理的に検討でき、複雑な設計課題に対して創造的で効果的な解決策を見出し、それを適切にCADを用いて表現できる。 【主】 他者とのコミュニケーションを通じて自分のアイデアや意見を明確に表現だけでなく、自ら積極的に調査や学習を行い、課題に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	15
6	○高校生デザインコンクールへの作品提出	【知】 テーマに沿った主要な材料や構造に関する知識から設計図を作成できる。また建築法規や基準についても十分に理解している。 【思】 独自のアイデアやデザインを考案し、その実現可能性を論理的に検討でき、複雑な設計課題に対して創造的で効果的な解決策を見出し、それを適切にCADを用いて表現できる。 【主】 他者とのコミュニケーションを通じて自分のアイデアや意見を明確に表現だけでなく、自ら積極的に調査や学習を行い、課題に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	33
7			
8			
9	○卒業設計コンクールへの作品提出	【知】 テーマに沿った主要な材料や構造に関する知識から設計図を作成できる。また建築法規や基準についても十分に理解している。 【思】 独自のアイデアやデザインを考案し、その実現可能性を論理的に検討でき、複雑な設計課題に対して創造的で効果的な解決策を見出し、それを適切にCADを用いて表現できる。 【主】 他者とのコミュニケーションを通じて自分のアイデアや意見を明確に表現だけでなく、自ら積極的に調査や学習を行い、課題に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	45
10			
11			
12			
1			
			合計 96

通し番号	45					
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス				
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
電気・建築科	3	年	工業	建築施工	必修	3
科目の目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の施工に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 建築物の施工について安全性や環境への配慮を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 建築物の施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 安全で安心な建築物を施工する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
教材	建築施工（実教出版）					
留意点					開講予定 人数	
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	建築物の施工について安全性や環境への配慮を踏まえて理解するとともに、関連する技術が身に付いている。					
思考・判断・表現	建築物の施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力が身に付いている。					
主体的に学習に取り組む態度	安全で安心な建築物を施工する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	定期考査					
思考・判断・表現	定期考査、課題・授業への取組、課題等の提出状況					
主体的に学習に取り組む態度	課題・授業への取組、課題等の提出状況					
3 履修上および学習上の注意						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	「建築施工」を学ぶにあたって 第1章 工事の準備 1節 地盤と敷地の調査・確認 2節 仮設工事	【知】 工事の準備に関する基礎的な知識と技術を身につけ、建築敷地の調査、測量の方法の意義や役割を理解している。 【思】 工事の準備に関する基礎的な知識と技術をもとに、敷地調査、測量方法を思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】 工事の準備の基礎的な知識と技術について関心をもち、建築敷地の調査、測量の方法の習得に向けて意欲的に取り組み、実際に活用しようとする態度を身につけている。	1 8
5	前期中間考査		1
6	第2章 地面から下の工事 －土工事および杭・地業工事－ 1節 土工事および杭・地業工事の種類と流れ 2節 土工事・山留め 3節 杭工事 4節 地業工事	【知】 地面から下の工事に関する基礎的な知識と技術を身につけ、土工事および杭・地業工事の意義や役割を理解している。 【思】 地面から下の工事に関する基礎的な知識と技術をもとに、土工事および杭・地業工事の概要を思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】 地面から下の工事に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、土工事および杭・地業工事の概要の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。	10
7	第3章 木構造の工事 1節 基礎 2節 在来工法の骨組 3節 枠組壁工法の躯体 4節 外部仕上げ	【知】 木構造の基礎に関する基礎的な知識と技術を身につけ基礎工事の工法の意義や役割を理解している。 【思】 木構造の基礎に関する基礎的な知識と技術をもとに、基礎工事の工法について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】 木構造の基礎に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、基礎工事の工法の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。	14
8	5節 内部仕上げ 第4章 鉄筋コンクリート構造の工事 1節 鉄筋コンクリート工事 2節 基礎 3節 躯体 4節 外部仕上げ	【知】 鉄筋コンクリート構造の鉄筋コンクリート工事に関する基礎的な知識と技術を身につけ、その工事の意義や役割を理解している。 【思】 鉄筋コンクリート構造の鉄筋コンクリート工事に関する基礎的な知識と技術をもとに、その工事について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】 鉄筋コンクリート構造の鉄筋コンクリート工事に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、その工事の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。	16
9	5節 内部仕上げ 前期期末考査		1
	第5章 鋼構造の工事 1節 基礎 2節 骨組（柱と梁） 3節 スラブ	【知】 鋼構造の基礎に関する基礎的な知識と技術を身につけ基礎工事の工法の意義や役割を理解している。 【思】 鋼構造の基礎に関する基礎的な知識と技術をもとに、基礎工事の工法について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】 鋼構造の基礎に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、基礎工事の工法の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。	14
10	4節 耐火被覆 5節 仕上げ 第6章 設備の工事 1節 設備工事の種類	【知】 設備工事の種類に関する基礎的な知識と技術を身につけ、設備工事の意義や役割を理解している。 【思】 設備工事の種類に関する基礎的な知識と技術をもとに、設備工事の意義や役割を理解している。 【主】 建築物の保全に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、保全の分類と考え方および保全の方法の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。	10
11	2節 設備工事に必要な資格 3節 設備工事の工程		
	第7章 建築物のライフサイクルと環境への配慮 1節 建築物のライフサイクル 2節 解体工事 3節 環境保全	【知】 建築物のライフサイクルと、建築物の保全に関する基礎的な知識と技術を身につけ、保全の分類と考え方および保全の方法の意義や役割を理解している。 【思】 建築物のライフサイクルと、建築物の保全に関する基礎的な知識と技術をもとに、保全の分類と考え方および保全の方法について思考するとともに、実際に活用する際に適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】 建築物のライフサイクルと、建築物の保全に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、保全の分類と考え方および保全の方法の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。	8
12	後期中間考査		1
	第8章 建築の業務 1節 工事契約	【知】 工事契約に関する基礎的な知識と技術を身につけ、発注方式、契約方式、契約内容の意義や役割を理解している。 【思】 工事契約に関する基礎的な知識と技術をもとに、発注方式、契約方式、契約内容について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】 工事契約に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、発注方式、契約方式、契約内容の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。	6
1	2節 現場組織の編成 3節 施工計画と施工管理 4節 建築業務とICT（情報通信技術） 第9章 建築工事費の算出－積算－ 1節 積算の基本事項 2節 工事費の構成 3節 積算の方法	【知】 積算に関する基礎的な知識と技術を身につけ、積算の分類と数量・歩掛り・単価などの基本事項の意義や役割を理解している。 【思】 積算に関する基礎的な知識と技術をもとに、積算の分類と数量・歩掛り・単価などの基本事項について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。	6
			合計 96

通し番号	46					
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス				
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
電気・建築科	3	年	工業	建築法規	必修	2
科目の目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の計画、設計、施工及び管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 建築関係法規について法的な側面から建築物の安全性や快適性を踏まえて理解するようにする。 (2) 法的な側面から建築物に関する課題を発見し、技術者として法的な根拠に基づき解決する力を養う。 (3) 安全で安心な建築物を計画、設計、施工及び管理する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
教材	建築法規（実教出版）					
	建築基準法関係法令集（建築資料研究社）					
留意点					開講予定 人数	
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	建築関係法規について法的な側面から建築物の安全性や快適性を踏まえて理解できている					
思考・判断・表現	法的な側面から建築物に関する課題を発見し、技術者として法的な根拠に基づき解決する力が身に付いている。					
主体的に学習に取り組む態度	安全で安心な建築物を計画、設計、施工及び管理する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	定期考査、課題・授業への取組					
思考・判断・表現	定期考査、課題・授業への取組、課題等の提出状況					
主体的に学習に取り組む態度	課題・授業への取組、課題等の提出状況					
3 履修上および学習上の注意						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	「建築法規」を学ぶにあたって 第1章 建築法規のあらまし 1 建築法規の起源 2 建築法規の意義 3 法規の体系と建築基準法の構成	「知識・技能」 ・建築法規を包括的に学習し、建築生産に役立つ実践的な知識を身につけ、建築法規に関する知識を建築物の設計や施工にかかわる業務に活用できる。	1 6
5	4 建築基準法の基本用語	「思考・判断・表現」 ・建築法規の役割について思考を深め、種々の事例に対して知識・技能を生かして適切に判断し、建築の計画・設計・施工などの学習において的確に表現できる。	1
6	前期中間考査 第2章 個々の建築物にかかわる規定 1 一般構造・建築設備についての規定 2 構造強度についての規定 3 防火と避難についての規定	「主体的に学習に取り組む態度」 ・建築物や都市生活の安全性、良好な都市環境を保つ観点などから、建築法規の必要性や諸問題などについて幅広く関心をもち、主体的に学習に取り組んでいる。	12
7	第3章 良好な都市環境をつくるための規定 1 都市計画法と建築基準法 2 土地利用 3 道路と敷地 4 密度に関する規定 5 形態に関する規定		10
8	6 良好なまちづくり 第4章 手続きなどの規定 1 手続きのあらまし 2 手続きに関する機関 3 着工前の手続き		10
9	4 工事中の手続き 5 使用中の手続き 6 違反建築物などに対する措置 7 その他の制度 前期期末考査		1
10	第5章 各種の関係法規 1 設計と工事の段階にかかわる規定 2 良好な建築を促進する法規 3 その他の法規		8
11	2節 設備工事に必要な資格 3節 設備工事の工程 第7章 建築物のライフサイクルと環境への配慮 1節 建築物のライフサイクル 2節 解体工事 3節 環境保全		6
12	後期中間考査		1
1	第8章 建築の業務 1節 工事契約 2節 現場組織の編成 3節 施工計画と施工管理 4節 建築業務とICT（情報通信技術） 第9章 建築工事費の算出－積算－ 1節 積算の基本事項 2節 工事費の構成 3節 積算の方法		8
			合計 64

通し番号	47					
令和7年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修・選択	単位数
電気・建築科	3	年	工業	工業環境技術	選択	2
科目の目標	①知識及び技能 環境技術について工業の各分野における産業と環境との関係や環境の保全技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②思考、判断、表現 環境技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ③主体的に学習に取り組む態度 環境技術を用いて持続可能な社会を構築する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
教材	工業環境技術（実教出版）					
留意点					開講予定 人数	
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	環境問題の種類やその特徴を理解し、環境保全に求められる基礎的な環境技術や方策に関する知識を身に付けている。また、情報の検索と選択や資料の活用のほか、調査・実験についても適切に行うことができる。					
思考・判断・表現	身近な環境問題から地球環境問題までを系統的にとらえ、人類が環境に与える影響や人間と環境技術が果たす役割について思考・判断することができる。					
主体的に学習に取り組む態度	環境問題や環境保全技術に関心をもち、環境にかかわる諸課題の探求と問題解決のため主体的に学習することができる。また、既存の知識と新たに習得した知識を融合して探求的な学習活動を行うことができる。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	定期考査・小テスト、レポート					
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、レポート					
主体的に学習に取り組む態度	レポート、学習観察					
3 履修上および学習上の注意						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	「工業環境技術」を学ぶにあたって		3
	第1章 地球と人類	【知】地球構造と循環や資源特徴と問題点、人口と資源消費の関連を把握することができる。	8
	1節 地球の成り立ち	【思】炭素や水の循環の影響を説明し、資源の社会的影響と保護の必要性を説明することができる。また、経済活動が資源消費に与える影響や日本の資源利用の問題点を提起することができる。	
5	2節 地球上の資源	【主】地球構造や物質循環を学習し、資源の社会的価値や問題の調査を通して理解し、他の科目の知識を活用して探求しようとしている。	
	3節 世界の資源と人間		
	第2章 社会と環境	【知】日本の公害問題と国際的な環境対策を理解している。環境法や影響評価、保全手法、関係者の役割についての知識を身につけている。	8
6	1節 社会と環境の歴史"	【思】公害や環境問題の背景と拡大経緯を検証し、国際的取り組みの重要性を説明することができる。また、日本の環境政策や役割について説明することができる。	
	2節 日本の環境政策	【主】地球環境の歴史を整理しながら学習に取り組もうとしている。法律関係やアセスメント手順をフローチャートで学習しようとしている。	
	第3章 地球温暖化とエネルギー	【知】地球温暖化の原因と対策を理解し、将来の影響をグラフで読み取ることができる。エネルギー供給と消費関係や効率的な利用技術を図に表現することができる。	9
7	1節 地球温暖化とその影響"	【思】地球温暖化のシナリオと予測の関係を考察し、社会的・生物学的影響と対策を検討できる。各国の発電構成からエネルギー事情を推察し、利用技術の長所と短所を判断できる。	
	2節 エネルギーの利用技術と地球温暖化対策	【主】地球温暖化の危機を身近に感じ、情報を取捨選択し学習を進めている。発電方法やエネルギー技術に興味を持ち、関連科目の知識と結び付けて理解を深めようとしている。	
8	第4章 廃棄物とリサイクル	【知】廃棄物の分類や排出量、不法投棄の実態を把握し、分別から処理・処分までの流れや3R、ライフサイクルに関する知識を身につけている。	8
9	1節 廃棄物の現状"	【思】経済活動に伴うごみ問題を考察し、処理の必要性や問題点を説明することができる。処理技術と環境対策を理解し、抑制と3Rから適切な処分方法を判断することができる。	
	2節 廃棄物の処理技術と管理	【主】ごみ問題に関心を持ち、解決に向けて学習することができる。処理方法や制度の理解に努め、効果的な学習方法を模索することができる。	
10	第5章 地域環境の保全	【知】大気・水・土壌汚染の種類や基準、排出ガス処理技術、水質汚染原因、土壌汚染対策、公害対策、騒音計算について理解している。	10
	1節 大気汚染の現状と対策"	【思】大気・水・土壌汚染の種類や基準、排出ガス処理技術、水質汚染原因、土壌汚染対策、公害対策、騒音計算について考察・判断することができる。	
11	2節 水質汚染の現状と対策	【主】大気・水・土壌汚染の種類や基準、排出ガス処理技術、水質汚染原因、土壌汚染対策、公害対策、騒音計算について、関連科目の知識と結び付けて理解を深めようとしている。	
	3節 土壌・地下水汚染の現状と対策		
	4節 騒音・振動・臭気の現状と対策		
	第6章 産業と環境	【知】環境マネジメントやライフサイクル、安全データ読取、省エネ・再生エネ理解、リサイクル法・フロン問題について理解している。	10
12	1節 産業界の環境管理の取り組み"	【思】企業の環境対応とリスク管理、省エネと再生可能エネルギー、廃棄物削減とフロン排出対策を検討することができる。	
	2節 環境リスクと安全管理の取り組み	【主】企業の環境対応を調査し、リスク削減方法を模索。エネルギー節約と再生可能エネルギーのメリットを学び、環境保全に関連付けながら学ぼうとしている。	
	3節 省エネルギーの取り組み		
	4節 再生可能エネルギーの取り組み		
	5節 廃棄物処理とリサイクルの取り組み		
1	第7章 都市・生活と環境	【知】環境問題の理解と対策について学び、ヒートアイランドや水の利用、健康対策、防災意識を高め、まちづくりやエネルギー削減の取り組みについて理解している。	8
	1節 都市システムと環境	【思】エネルギー消費とヒートアイランド、水処理、省エネルギーと環境汚染対について説明することができる。健康影響、省エネ住宅、防災、環境保全を研究・発表することができる	
	2節 住環境と健康	【主】エネルギーと水のシステム理解し、地球温暖化や住環境に関する知識を再活用しようとしている。防災意識高め、環境保全について学習意欲を高めようとしている。	
	3節 自然環境と防災・減災		
	4節 環境保全に向けたさまざまな取り組み		
			合計 64

通し番号	201					
令和7年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教 科	科 目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	3	年	国語	実用国語	選択	2
科目の目標	日常的な国語について学び、読む、書く、話す、聴く力を総合的に身につけ、基礎的な国語力の充実と自己表現力の育成を目指す。 ①知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ②思考、判断、表現 実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
教材	パスポート国語必携 五訂版（桐原書店）					
留意点					開講予定 人数	
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。					
思考・判断・表現	実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。					
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	小テスト・課題					
思考・判断・表現	小テスト・課題・ 作文・発表・グループ活動					
主体的に学習に取り組む態度	作文・発表・グループ活動・ 学習観察					
3 履修上および学習上の注意						
漢字検定準2級以上を受験することが望ましい。						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	オリエンテーション （使用教材、成績の付き方）		1
	○正しく情報を伝えよう ・他己紹介	【知】 伝え方の方法や工夫を理解することができる。 【思】 相手の情報が他者に正しく伝わるようにインタビューの仕方や紹介を工夫することができる。 【主】 積極的にコミュニケーションをとり、相手をより理解しようとしている。	4
5	○敬語について学ぶ	【知】 「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」を理解している。 【思】 それぞれの敬語を文章に合わせて判断することができる。 【主】 敬語への理解を深め、日常でも使いこなそうとしている。	5
			7
6	○自己理解を深めよう ・スピーチ発表 「自分の長所と短所」	【知】 具体的でわかりやすいスピーチ内容はどんなものか理解している。 【思】 目線、声量、話すスピードなど「話す」ときに気をつけなければいけないことを意識して話している。 【主】 自身を振り返り、自己理解を深めようとしている。	10
	○わかりやすい文章の作り方 ・文章の整え方① ・原稿用紙の使い方 ・作文作成①	【知】 「話し言葉」と「書き言葉」の違いなど、わかりやすい文章の書き方を理解している。 【思】 自分の考えをまとめ、相手にわかりやすい文章を考えることができる。 【主】 伝えたい内容に合わせた表現を工夫しようとしている。	4
8	「学校生活で学んだこと」		
9	○S P I 対策	【知】 「二語の関係」や「同意語・反意語、語句の意味」等を理解している。 【思】 S P I の特徴を理解し、問題を早く、正確に解こうとしている。 【主】 より多くの問題に触れ、問題に慣れようとしている。	4
	○読みやすい文章の作り方 ・文章の整え方②	【知】 「主述の対応」や「接続詞」等を理解している。 【思】 決められたルールを使い、自分の文章に反映させようとしている。 【主】 積極的に文章の表現技法を使おうとしている。	4
10	○インタビューをしてみよう	【知】 インタビューをするときに気をつけなければいけないことを理解している。 【思】 相手がより話したくなるような質問をしようとしている。 【主】 相手の話に興味を持ち、積極的にインタビューしようとしている。	5
	○将来について考えよう ・作文② 「十年後の自分」	【知】 原稿用紙の使い方を理解している。 【思】 比喩表現など、文章表現を豊かにする工夫をしている。 【主】 将来の自分を想像し、根拠をもとにして考えようとしている。	5
			5
12	○模擬討論をしてみよう 「留萌地域移住プロジェクト」	【知】 自分の考えを、根拠をもとに話そうとしている。 【思】 自分なりのアイデアを持ち、他の人の意見を聞いて考えを膨らませようとしている。 【主】 積極的に討論し、アイデアを深めようとしている。	5
1	○「聞くこと」の力をつけよう ・落語、新聞、エッセイ等	【知】 「聞く」ときに気をつけなければいけないことを理解している。 【思】 情報を正確に聞き取り、内容を理解しようとしている。 【主】 リスニング教材に興味関心を持とうとしている。	5
	○「書くこと」の力をつけよう ・子供の権利条約	【知】 文章の種類によって、文章表現が変わることを理解している。 【思】 「読み手」によって文章表現を変え、適した文章を書こうとしている。 【主】 場面ごとの文章の書き方の違いに興味を持とうとしている。	
2			
3	○学校生活を振り返ろう ・作文作成③ 「留萌高校をもっとよい学校にするには」	【知】 説得力のある文章の書き方を理解している。 【思】 自分の考えを具体的に書き、わかりやすく説得力のある文章になるよう工夫している。 【主】 自分の周りの環境の「改善点」に気づき、想像を膨らませ、「改善方法」を考えようとしている。	
			合計 64

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	○オリエンテーション		1
	1 Food Culture in China	(知) 受動態を用いた文の用法を理解している。 (思) 好きな料理の特徴や食材について、英語で話することができる。 (主) 好きな料理の特徴や食材について、英語で話そうとしている。	4
	単元テスト①		1
	2 Multiethnic Singapore	(知) 継続を表す過去完了を用いた文の用法を理解している。 (思) 習ってみたい外国語とその理由について英語で話することができる。 (主) 習ってみたい外国語とその理由について英語で話そうとしている。	4
5	単元テスト②		1
	3 Unique Australian English	(知) to不定詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 知っている方言の意味について英語で話することができる。 (主) 知っている方言の意味について英語で話そうとしている。	4
	単元テスト③		1
	【パフォーマンステスト1】		4
	4 The Ganges	(知) 名詞を修飾する過去分詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 日本の観光地やイベントについて、英語で話することができる。 (主) 日本の観光地やイベントについて、英語で話そうとしている。	
6	単元テスト④		1
	◎ Travel English		
	5 Turkish Cuisine	(知) 接続詞ifを用いた文の用法を理解している。 (思) おすすめの日本食について英語で説明できる。 (主) おすすめの日本食について英語で説明しようとしている。	4
	単元テスト⑤		1
7	6 Ramadan	(知) 比較級を用いた文の用法を理解している。 (思) 節分、七夕、七五三について英語で説明できる。 (主) 節分、七夕、七五三について英語で説明しようとしている。	4
	単元テスト⑥		1
	7 Kenya, Leading Mobile Money Country	(知) 道具を表すwithを用いた文の用法を理解している。 (思) スマートフォンの便利な機能やアプリについて英語で説明できる。 (主) スマートフォンの便利な機能やアプリについて英語で説明しようとしている。	4
	単元テスト⑦		1
	8 Onion Domes of Russian Churches	(知) 名詞を修飾する～ingを用いた文の用法を理解している。 (思) 日本の寺や神社での作法を英語で説明できる。 (主) 日本の寺や神社での作法を英語で説明しようとしている。	3
8	単元テスト⑧		1
	◎ Talking about Japan		1
	9 British Boarding Schools	(知) see+人+～ingを用いた文の用法を理解している。 (思) 学校生活の思い出を英語で話せる。 (主) 学校生活の思い出を英語で話そうとしている。	3
9	単元テスト⑨		1
	1 0 Land of Fire and Ice	(知) 関係代名詞thatを用いた文の用法を理解している。 (思) 日本のエネルギー利用について、英語で話し合える。 (主) 日本のエネルギー利用について、英語で話し合おうとしている。	4
10	単元テスト⑩		1
	1 1 Japanese Immigrants to Brazil	(知) it is ～ (for 人) to ...を用いた文の用法を理解している。 (思) 海外で活躍する日本人について英語で話せる。 (主) 海外で活躍する日本人について英語で話そうとしている。	3
11	単元テスト⑪		1
	【パフォーマンステスト2】		1
	1 2 Day of the Dead	(知) that節を用いた文の用法を理解している。 (思) 日本のお盆やお墓参りについて、英語で説明できる。 (主) 日本のお盆やお墓参りについて、英語で説明しようとしている。	4
12	単元テスト⑫		1
	1 3 The U.S.A. and Its States	(知) 接続詞whenを用いた文の用法を理解している。 (思) 行きたい国とその理由を英語で話せる。 (主) 行きたい国とその理由を英語で話そうとしている。	3
1	単元テスト⑬		1
			合計 64

通し番号		203		令和7年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス		
1 科目の概要									
学 科		学 年 ・ 年 次		教 科	科 目	必修・必履修・選択		単位数	
全科		3	年	芸術	音楽Ⅱ	選択		2	
科目の目標		(1) 音楽Ⅰの学習経験を基盤として、質的に高めた音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせながら、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化とより深く関わる資質・能力を育成する。 (2) 音楽Ⅰの学習成果を踏まえ、文化的・歴史的背景や音楽の多様性について理解を深め、より広い視野で音楽を捉えることができるようにする。 (3) 個性豊かな音楽表現を創意工夫できるようにするために、必要となる技能を身に付け高めることができるようにする。 (4) 音や音楽を知覚・感受し、思考・判断する過程を充実させ、音楽を評価しながらそのよさや美しさを深く味わって聴く力を高める。 (5) 主体的・協働的な音楽活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、音や音楽のよさや美しさなどを自ら進んで感じ取ろうとする態度を養う。 (6) 音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度や音楽の知的財産権を尊重する態度を養う。							
教材		教育出版 音楽Ⅱ Tutti+							
		自作のプリント・楽譜など							
留意点							開講予定人数	20	
2 評価									
(1) 評価の観点									
観 点		趣 旨							
知識・技能		【知】曲想と音楽の構造との関わり、曲想と器楽の音色や奏法との関わり及びそれらの関わりによって生み出される表現上の効果、様々な表現形態による器楽表現の固有性や多様性について理解している。 【技】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法や身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。【知】様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。							
思考・判断・表現		音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに器楽表現を創意工夫している							
主体的に学習に取り組む態度		なじみのあるJ-POPの歌を、歌詞の内容や作詞者・作曲者のメッセージを考えながら二部合唱で歌うことに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 器楽や和楽器の音色や奏法の特徴を感じ取ることや、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽主体的に学習に取り組む態度文化の固有性、共通性を考えることに関心をもち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。							
(2) 評価方法									
観 点		評 価 方 法							
知識・技能		定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察							
思考・判断・表現		ワークシート・学習観察							
主体的に学習に取り組む態度		・定期考査・小テスト・学習観察							
3 履修上および学習上の注意									
※ギター、トーンチャイム、歌唱、器楽（リコーダーも含む）、鑑賞、和楽器など幅広く取り組みます。 ※紙ファイルA4版、五線ノート8段～12段を用意してください。									

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	○Hum With Me.. ○よりよい歌声のための練習曲 ◆「アヴェ・マリア」を聴き比べよう ○グレゴリオ聖歌「アヴェ・マリア」 ○カミュ・サン＝サーンス ○アントン・ブルックナー ◆史跡でたどる西洋音楽史 ◆作曲家年表 ◆音楽史と史実 ◆鑑賞ノート（自作）	【知】曲想と音楽の構造との関わり及びその関わりによって生みだされる表現上の効果について理解している。（歌唱） 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。（歌唱） 【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。（鑑賞） 音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。（歌唱） 旋律、リズム、速度、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。（鑑賞）	6
5	○Review 四季の歌 さくらさくら/我は海の子/ ◆音のスケッチ① 音楽の要素を探ろう ◆作曲家年表 ◆楽典（強弱・速度・発想記号）	【知】音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受し、との関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。	8
6	○Core 'ngrato ○Piacer d'amor ◆イタリア語に挑戦！ ◆Review of Basics③ 長音階と短音階 ◆史跡でたどる西洋音楽史	【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、の関わりによって生みだされる表現上の効果について理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付け、表している。	8
7	【共通教材】 ○Deck the hall with boughs of holly ○ほたるこい ○Amazing grace	【知】様々な表現形態による歌唱（器楽）表現の固有性や多様性について理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱（器楽）表現をするために必要な他者との調和を意識して歌う（演奏する）技能、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う（演奏する）技能を身に付け、歌唱（器楽）で表している。	6
8	○You are my sunshine □Action I	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。	4
9	◆協奏曲の魅力を探ろう ○ピアノ協奏曲第1番 木短調 op.11 ◆作曲家年表 ◆音楽史と史実 ◆史跡でたどる西洋音楽史 ◆鑑賞ノート（自作）	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。	8
10	○Auf Flügeln des Gesanges ○Ich liebe dich ◆ドイツ語に挑戦！ ◆Review of Basics④ さまざまな短音階 ◆作曲家年表 ◆音楽史と史実 ◆史跡でたどる西洋音楽史	【知】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、それらの関わりによって生みだされる表現上の効果について理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表している。	8
11	○あなたはどこに ○たからもの ○大きな古時計 ○Moon river	【知】曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果、様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。	8
12	◆名曲プレゼンテーションⅡ—演奏家と楽器が生み出す音楽の魅力—（自作） ◆演奏家の表現の仕方を感じ取ろう ○無伴奏チェロ組曲第1番 ○ツィゴイネルワイゼン ○ハンガリー田園幻想曲 ○クラリネット・ソナタ第2番 ○アダージョとアレグロ ○ハーブ・ソナタ ◆口絵①② 楽器の音色から広がる音楽の世界 ※学習状況に基づいて下記【A】【B】【C】から一つを選択して学習する。 【A】 ○トゥーランドット	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。 【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり及びそれらの関わりによって生みだされる表現上の効果を理解している。（歌唱） 【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景や他の芸術との関わりについて理解を深めている。（鑑賞） 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表している。（歌唱） 【技】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法や身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。（器楽）	6
1	○Nessun dorma 【B】 ○キャッツ ○Over the rainbow 【C】 ○ニュー・シネマ・パラダイス □タイトル曲 □二人だけの映画会 □愛のテーマ		合計 62

通し番号	204					
令和 7 年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教 科	科 目	必修・必履修・選択	単位数
全科	3	年	芸術	美術Ⅱ	選択	2
科目の目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 （２）造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 （３）主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。					
教材	高校生の美術 2（日本文教出版）					
留意点					開講予定 人数	15

2 評価	
(1) 評価の観点	
観 点	趣 旨
知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な 視点について理解を深めている。 ・表現方法を創意工夫し、個性 豊かで創造的に表している。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の 意図と創造的な工夫、美術の働 きなどについて考え、主題を生 成し個性豊かに発想し構想を 練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見 方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の創造的な諸活 動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法	
観点	評価方法
知識・技能	制作物、小テスト、ワークシート、学習観察
思考・判断・表現	制作物、小テスト、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	制作物、小テスト、ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意
・教材費として6,000円程度を徴収する予定である。 ・絵具等で汚れる可能性があるため、汚れてもよい上着を準備してください。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	・オリエンテーション （1年の流れ、成績について 教室の使用ルール）		1
5	・マチエール・抽象画	【知】 形や色，材料などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などをもとに，抽象絵画を，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【技】 主題に合ったマチエールや表現方法を創意工夫し，材料や用具の特性を生かして個性豊かで創造的にあわせている。 【発】 自己について深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し，形や色，構図などについて考え，個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。 【鑑】 造形的なよさや美しさを感じ取り，発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え，見方や感じ方を深めている。 【主】 主体的に抽象絵画の造形的なよさや美しさを感じ取り，発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考えながら，鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	30
	・美術史	【知】 形や色，材料，光などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などをもとに，さまざまな作品の歴史や表現、成り立ちなどを，全体のイメージや様式などで捉えることを理解している。 【鑑】 さまざまな作品の造形的なよさや美しさを比較しながら感じ取るとともに，心豊かな生き方の創造に関わる美術の働きや，時代，民族，風土，宗教などによる表現の共通点や相違点などから，生活や社会の中の美術や美術文化について考え，見方や感じ方を深めている。 【主】 主体的にさまざまな作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き，時代，民族，風土，宗教などによる表現の共通点や相違点などから，生活や社会の中の美術や美術文化について考えながら，鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	4
7	・映像メディア表現	【知】 形や色，光などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などをもとに，写真を，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【技】 意図に応じてカメラ等の用具の特性を生かして，テーマの意図を効果的にあわせている。 【発】 テーマであらわすことの意味を考え，被写体を見つめて感じ取ったことや考えたことをもとに映像メディアの特性を生かして主題を生成し，視点や構図，光などの視覚的な要素の働きについて考え，創造的な表現の構想を練っている。 【鑑】 写真の美しさを感じ取り，作者の意図と表現の工夫について考え，おこる見方や感じ方を深めている。 【主】 主体的に撮影のテーマを探し，被写体を見つめ感じ取ったことや考えたことなどをもとに，写真に表現する創造活動に取り組もうとしている。	10
10	・デザイン	【知】 形や色，材料などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などをもとに，デザインを全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解している。 【技】 意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに，表現を工夫し，目的や計画をもとに創造的にあわせている。 【発】 ものの形や色の特徴などから主題を生成し，形と色の組み合わせや構成などの効果について考え，創造的な表現の構想を練っている。 【鑑】 デザインの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り，形や色，構成の工夫などについて考え，見方や感じ方を深めている。 【主】 主体的にデザインの目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り，形や色，構成の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	16
1	・1年間まとめ、掃除		3
			合計 64

通し番号	205					
令和 7 年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教 科	科 目	必修・必修修・選択	単位数
全科	3	年	家庭	フードデザイン	選択	2
科目の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 【知識・技能】栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【主体的に取り組む態度】食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
教材	フードデザイン 家庭 7 0 2（教育図書）					
留意点					開講予定 人数	2 0 人まで
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。					
思考・判断・表現	食生活の現状から食生活全般に関する課題を見出し思考を深め、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。					
主体的に学習に取り組む態度	食生活に関する諸問題に関心をもち自ら学び、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	実技・単元テスト					
思考・判断・表現	ワークシート					
主体的に学習に取り組む態度	学習観察・ワークシート					
3 履修上および学習上の注意						
材料費4,000円徴収予定。調理実習を 1 時間で実施する。その場で作って食べて片付けまで行う。持ち帰りは認めない。作るものは教員で課題を提示する。食べ物の好き嫌いが多い者は履修をおすすめしない。						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 健康と食生活 ① 食事の意義と役割 ② 食を取り巻く現状	【知】 毎日の食事にどのような役割があるか理解している。 日本の食生活の現状と、青年期の食生活の課題を理解している。 【思】 食事の役割をふまえて、自らの食生活を正しく評価している。 【関】 よくない食生活と、それによって引き起こされる生活習慣病を防ぐため食生活の向上を実践しようとしている。	3
5	第2章 栄養素と食品 ① 栄養素と消化・吸収 ② 各栄養素のはたらき ③ 食品との特徴 ④ 何をどれだけ食べる？	【知】 からだの構成成分と栄養素について基礎的な知識を身に付けている。 食品の消化と吸収のしくみについて理解している。 栄養素の種類と役割について、科学的に理解している。 【思】 食品の特徴、調理上の性質、調理の特徴や加工などについて考察することができる 【関】 身の回りの加工食品と、加工の目的から自身の食生活の課題解決に主体的に取り組んでいる	16
6	第3章 食品の選択と取り扱い ① 食品選択のコツ ② 食品の衛生と安全 ③ 食の安全を考えて選ぶ	【知】 生鮮食品の選び方のコツを身に付けている。 加工食品の表示を読み解く技術を身に付けている。 食物アレルギーと表示について理解している。 【思】 食中毒の特徴から、リスクを減らすため安全で健康や環境に配慮した調理や食材の管理を考察することができる。 【関】 食品の安全を守るためのさまざまな制度から自身の食生活との関連性を意識することができる	5
7	第4章 調理してみよう ① なぜ調理するのか ② 調理操作と調理器具	【知】 食べ物の味が影響を受けている要素を理解している。 非加熱調理と加熱操作の種類とそれぞれの特徴を理解している。 衛生面と安全に配慮した食品の取り扱いと、調理操作を身に付けている。 【思】 調理の目的から安全性、栄養性、おいしさなどの面を考察することができる。 【関】 栄養、嗜好、費用、食品、調理法、季節感を意識した献立を構成することができる。	27
8	実践編 献立と調理		
9			
10			
11	第5章 各国料理とコーディネート ① 料理の様式 ② テーブルコーディネート	【知】 各様式別料理の特徴や献立構成について理解している。 【思】 各様式別料理の作法に関するマナーやサービスを考察し、表現することができる。 【関】 目的に応じたテーブルコーディネートの技術を実践しようとしている。	8
12	第6章 食育と食育推進活動 ① 食育推進の取り組み ② 食文化を見つめる ③ 食と環境について考えよう	【知】 食育基本法、食育推進計画等の目的や概要を理解している。 日本の食料自給率の現状と課題について理解している。 【思】 家庭、学校、地域等の食育活動に関連する情報を収集・整理している。 【関】 食品ロスの原因と、食品ロス削減に関する取り組みについて自身の食生活との関連性を意識することができる。	5
1			
			合計 64

通し番号	206		令和7年度入学生				北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要										
学 科		学 年 ・ 年 次		教 科	科 目		必修・必修修・選択		単位数	
全科		3	年	保体	生涯スポーツ		選択		2	
科目の目標		生涯にわたって自分自身のライフサイクルに適したスポーツを楽しみながら継続的に実施できる能力を高め、主体的・積極的に各種スポーツに取り組む態度を育てる。								
教材										
留意点							開講予定 人数			
2 評価										
(1) 評価の観点										
観 点		趣 旨								
知識・技能		生涯にわたって運動を継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解すると共に、楽しみながら学習に取り組む力を養う								
思考・判断・表現		各領域・種目特有の特性や魅力に応じた課題を発見し、合理的・計画的な課題解決の過程の中で思考し判断する力を養う								
主体的に学習に取り組む態度		仲間と協力して実施計画を立案し、効果的に学習を進めることができる力を養う								
(2) 評価方法										
観点		評価方法								
知識・技能		実技テスト・ノート、授業活動								
思考・判断・表現		実技テスト・ノート、授業活動、計画・課題解決								
主体的に学習に取り組む態度		授業活動、計画・課題解決								
3 履修上および学習上の注意										
・単にスポーツに親しむだけではなく、仲間と協力して練習方法や戦術・戦略を考察したり、新たなルールや競技を考案したりするなど、主体的に授業を構築することを目標とする。 ・仲間と課題を見つけ、科学的な理解のもとに運動する習慣を身につける。 ・各種目でスキルテストを実施する。										

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4月～1月	年間を通して実施種目を選択	【知】運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている 【思】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている 【学】運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか	64
			合計 64

通し番号	207					
令和7年度入学生			北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要						
学科	学年・年次		教 科	科 目	必修・必修修・選択	単位数
全科	3	年	商業	ネットワーク管理	選択	2
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報資産を共有し保護する環境の提供に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 情報資産を共有し保護する環境の提供について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 情報資産を共有し保護する環境の提供に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報資産を共有し保護する環境の提供に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
教材						
留意点					開講予定 人数	30名
2 評価						
(1) 評価の観点						
観 点	趣 旨					
知識・技能	情報資産の共有、ネットワークの設計・構築に必要なハードウェア、ソフトウェア、情報セキュリティ管理について、その特性や設定に関連する知識と技術を身に付けている。					
思考・判断・表現	情報資産の共有、ネットワークの設計・構築に必要なハードウェア、ソフトウェア、情報セキュリティ管理について、課題を見出し、企業活動と関連付けて考え判断し表現できる。					
主体的に学習に取り組む態度	情報資産の共有、ネットワークの設計・構築に必要なハードウェア、ソフトウェア、情報セキュリティ管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組んでいる。					
(2) 評価方法						
観点	評価方法					
知識・技能	定期考査・小テスト					
思考・判断・表現	定期考査・小テストワークシート					
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート 学習観察					
3 履修上および学習上の注意						
「ネットワーク活用」は、2年で学んだ「ソフトウェア活用」の発展的な科目です。						

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	ガイダンス	情報資産を共有することの重要性について考え、説明することができたか。【知】	3
	1章 企業活動と情報通信ネットワーク	企業活動と情報通信ネットワークの関わりにおいて、情報資産を共有する重要性について考え、課題を見いだすことができたか。【思・主】	3
	1節 情報資産の共有の重要性		
	2節 情報通信ネットワークの形態と通信	さまざまな情報共有システムに関心を持ち、情報資産を共有し、保護する適切な環境を提供する活動の意義や役割を考えて学習活動ができたか。【主】	3
			10
	2章 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理	身の回りのネットワークについて検討し、必要なネットワーク構成案を考える活動ができたか。【知・思】	9
5	1節 情報通信ネットワークの設計方法		
	2節 情報通信ネットワークのしくみと通信方法	ネットワークを設計する基本的な方法について理解することができたか。【知】	10
	3節 ネットワーク機器		
6	4節 情報通信ネットワークの構築方法	ネットワークの構築について関心を持ち、ネットワーク構築に必要なハードウェアやソフトウェアについての学習や実習に積極的に取り組もうとしているか。【主】	10
		D H C Pサービスのインストールや設定手順を理解することができたか。【知】	
		管理ツールやセキュリティポリシーに基づいたネットワーク運用管理やユーザー管理を理解することができたか。【知】	
7	5節 情報通信ネットワークの運用と障害対策	サーバの稼働状況などを監視するパフォーマンス監視について理解することができたか。【知】	10
		システム監査の目的や監査の考え方が理解することができたか。【知】	
	6節 システム監査	システム監査の具体的な実施手順や代表的な監査技法について理解することができたか。【知・思】	10
8		情報資産に対するさまざまな脅威やリスクについて、さまざまな観点から考察し理解を深めることができたか。【知・思】	
	3章 情報セキュリティ	情報セキュリティの重要性について、企業存続という観点を踏まえながら理解できたか。【知】	6
	1節 情報セキュリティ管理の目的と重要性	情報セキュリティに関する各法規や組織的対応について理解できたか。【知】	
9	2節 人的対策	人的対策の具体的方法について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。【知・思】	8
		パスワードの適切な管理やアクセス権の重要性について、科学的な根拠に基づいて、思考しようとしたか。【知・思】	
10		人的対策の具体的方法について自ら学び、情報資産の保護に主体的かつ協働的に取り組もうとしたか。【思・主】	
11	3節 技術的対策	技術的対策の具体的方法について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。【知・思】	8
		不正アクセス・クラッキング対策の重要性について、科学的な根拠に基づいて、思考しようとしたか。【知・思】	
12		技術的対策の具体的方法について自ら学び、情報資産の保護に主体的かつ協働的に取り組もうとしたか。【思・主】	
1	4節 物理的対策	物理的対策の具体的方法について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。【知・思】	6
		自然災害への対策と防犯対策の重要性について、科学的な根拠に基づいて、思考しようとしたか。【知・思】	
		物理的対策の具体的方法について自ら学び、情報資産の保護に主体的かつ協働的に取り組もうとしたか。【主】	
			合計 96

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 グローバリ化が進展する社会	第1章【知】【思】【主】	6
	1. 国境を超えて広がる世界	・グローバル化する社会の現状やその問題点の概要について理解している。	
	2. グローバリ化する社会	・グローバル化の進展によって、社会がどのように変化しているのか、経済面での発展との関連について考えている。	
5	3. グローバリ化と地域経済統合の動き	・地域経済統合の意義について理解し、主な地域経済統合について把握している。	6
	4. グローバリ化と経済発展	・グローバル・バリューチェーンについて理解するとともに、経済発展との関連について考えている。	
	5. グローバリ化の諸問題	・グローバル化による問題点について、解決策の検討に取り組んでいる。	
6	中間考査	・実習に積極的に取り組んでいる。	2
	第2章経営のグローバル化	第2章【知】【思】【主】	
	1. 多国籍企業とグローバル経営	・企業がグローバル化する理由について考察することができている。	
	2. 企業の海外進出とグローバル経営の難しさ	・企業が海外進出する際の判断基準や方法について、それぞれの内容を理解している。	
7	3. グローバル経営の現状	・海外拠点の役割の変化や現地化の内容について理解している。	6
	4. グローバル経営の課題	・グローバル経営を行う上での課題について考察し、対応方法について考案することができている。	
8	5. グローバリ化に伴う企業の社会的責任	・グローバル化に伴う問題に対する企業の社会的責任について理解している。	6
9	第3章 経済のグローバル化	第3章【知】【思】【主】	10
	1. 人材のグローバル化	・人材のグローバル化について、現状を理解し、課題について考察することができている。	
	2. 財とサービスのグローバル化	・国際分業の特徴について理解し、それを実現させるための各種協定等について、各国における状況を踏まえて理解している。	
10	中間考査	第4章【知】【思】【主】	8
	3. 金融のグローバル化	・市場に関する理論的な内容について理解することができている。	
11	4. 情報のグローバル化	・現実社会における市場の課題について考察し、対応のための方法について考えることができる。	8
12	第4章	・市場理論を通して、経済学について関心を持つようとしている。	8
	市場と経済		
	1. 需要と供給による市場の理論		
	2. 経済成長		
	3. 景気循環とインフレーション		
	4. 経済政策		
1	学年末考査		4
			合計 64

通し番号	301		令和7年度入学生				北海道留萌高等学校 授業シラバス		
1 科目の概要									
学科		学年・年次		教 科	科 目	必修・必修修・選択		単位数	
電気・建築科／情報ビジネス科		3	年	理科	化学基礎	選択		2	
科目の目標		(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けようとする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。							
教材		新編 化学基礎（数研出版）							
		サンダイヤル 化学基礎の基本練習（啓林館）							
留意点							開講予定 人数		
2 評価									
(1) 評価の観点									
観 点		趣 旨							
知識・技能		日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解できた。科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けた。							
思考・判断・表現		物質とその変化について、身につけた知識を用いて用いて思考できた。観察、実験などを行い、科学的に探求する力を身に付けた。							
主体的に学習に取り組む態度		物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けた。							
(2) 評価方法									
観点		評価方法							
知識・技能		定期考査・小テスト、ワークシート、観察・実験、学習観察							
思考・判断・表現		定期考査・小テスト、ワークシート、観察・実験、学習観察							
主体的に学習に取り組む態度		定期考査・小テスト、ワークシート、観察・実験、学習観察							
3 履修上および学習上の注意									
電気・建築科、情報ビジネス科の生徒のみが選択できる科目です。定期考査は年3回実施する									

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1節 物質の構成と化学結合		
	1 物質の構成	【知】・混合物を分離する操作として、ろ過、蒸留、分留、昇華法、再結晶、抽出、クロマトグラフィーなどの方法をあげることができる。 【主】・身のまわりの物質が純物質と混合物に分類されることに興味をもつ 【思】・いろいろな物質を単体と化合物に分類することができる。 ・単体と化合物の違いについて説明することができる。	7
5	2 物質の構成粒子	【知】・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解している。	9
	[前期中間考査]	【主】・各元素の特徴および周期表上の元素の配列について興味をもつ。	1
6		【思】・原子について、どのような粒子から構成されているかを説明することができる。	
7			
	3 粒子の結合		10
8			
	[後期期末考査]	【知】・それぞれの結合の種類について説明できる。 ・さまざまなイオン式や分子式、電子式、構造式で表しその構造を考えることができる。	1
9		【思】・原子間の共有結合を考えることによって分子の構造を予想することができる。	
		【主】・身のまわりの物質の結合の成り立ちについて興味を持つ。	
10	第2節 物質の変化		
	1 物質量と化学反応式	【知】・モルの概念を、質量や粒子数、体積と結びつけることができる。	9
11		【思】・原子量をもとに、化学反応の量的な関係を導くことができる。	
	[後期中間考査]	【主】・化学反応が、化学反応式で表現できることがわかる。	1
12	2 酸と塩基の反応		14
1		【知】・酸や塩基の価数、電離度などの考え方があることを理解し、説明できる。	
		【思】・酸・塩基の性質をH^+とOH^-で考える方法と、H^+の授受で考える方法から、酸と塩基を見きわめられる。	
	[後期期末考査]	【主】・酸とは何か、塩基とは何かに関心をもつ。	1
3	3 酸化還元反応		
		【知】・電子の授受により酸化還元反応が説明できることを理解している。	11
		【思】・酸化数を求めることによって酸化還元反応を区別することができるようになる。	
		【主】・酸化と還元が同時に起こることに気づく。	
			合計 64